

## 学外体験学習における教育管理システムの運用とその効果

中江弘美<sup>1)</sup>，藪内さつき<sup>1)</sup>，日野出大輔<sup>1)</sup>，伊賀弘起<sup>1)</sup>，河野文昭<sup>2)</sup>，吉本勝彦<sup>3)</sup>

- 1) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔保健学講座
- 2) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 健康長寿歯科学講座
- 3) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 摂食機能制御学講座

### 1. はじめに

徳島大学歯学部では、2008年より3年間「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」をテーマに掲げた教育GPプログラムの取り組みを行い、教育GP終了後も継続して実施している。具体的には学外体験学習として、1年次後期の「高齢者交流学习」と、2年次前期の「地域福祉体験学習」を実施した。

この取り組みの中で、体験や気づきを文章化することにより再構成し、自分の中で整理して理解を深めていく作業が学生たちの成長に繋がることが期待される。このような体験学習の教育効果を高めることを目的として、2009年度から教育管理ネットワークシステム「エデュネット」を構築し運用を行っている。これは、歯学部教員、教務係、学生、実習先をウェブシステムでつなぎ、レポートの依頼、提出、採点などを迅速に対応するシステムである。今回、同システムの運用と教育効果について考察したので報告する。

### 2. エデュネットの概要

図1にエデュネットの概要を示す。エデュネットでは、IDとパスワードを与えられた学生が、徳島大学歯学部教育GPホームページ内のWebサイトからアクセスし、実習前に研修先となる施設の情報を得たり、学習記録(レポート)を提出することができる。教員や施設担当者は、個々の学生レポートの閲覧が迅速となり、入力したコメントを遅滞なく学生へ送信できる。つまり、エデュネットという媒体を中心に、学生、実習施設、教務係、教員の4者が繋がっており、それぞれの連携がスムーズかつ迅速に行えるシステムとなっている。また、エデュネットシステムの中で、教

員はレポートの管理やアンケートの集計を自動的に行うことが可能であり、学生の成績管理および実習内容の改善の参考とすることができる。

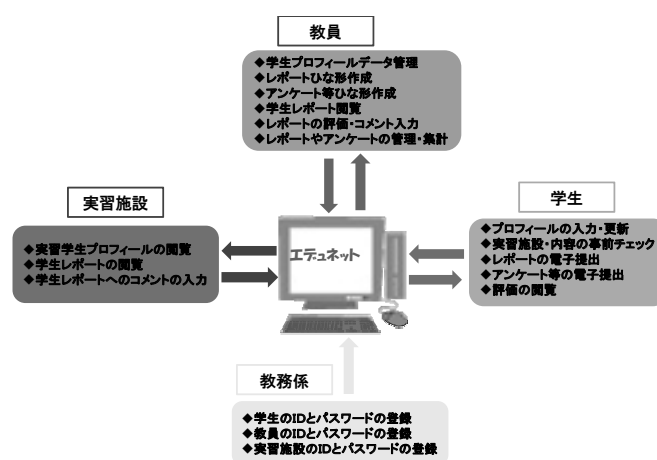


図1 エデュネットの概要

### 3. 対象および方法

「高齢者交流学习」に参加した歯学部歯学科4名、口腔保健学科15名に対する実習後のアンケート調査および、「地域福祉体験学習」に参加した歯学科52名、口腔保健学科15名のレポート内容から考察した。

### 4. 結果および考察

#### 1) 「地域福祉体験学習」でのエデュネットの利用

図2に、体験学習参加学生の学習記録と施設担当者からのコメントの1例を示す。

教員、学生、学外実習施設の3方向からのやりとりが可能というエデュネットの特徴が、学外体験実習において、実習前の福祉施設の情報把握に繋がり、スムーズに実習を推進させている。また、

提出されたレポートに対して教員および実習担当者のコメントを早期に入力するシステムにより学生への迅速なフィードバック効果が期待される。

**エデュネット**

報告書提出用レポート作成システム

レポート

**実習概要 ※必須**

平成22年5月28日 ○○デイサービスセンター

**実習内容**

口腔機能に関するアセスメント(健口くんを使用)  
 歯科医師講話 義歯について  
 お口の体操  
 巻舌を使ったレクリエーション

**利用者及び施設職員から得られた情報 ※必須**

Yさん77歳 要支援2  
 食事は楽しみにされているようで、毎日3食十分に食べている。  
 むせや食べこぼしなど、食事に不自由を感じていることはほとんどなく、うがいも一人で可能。  
 歯磨きの回数は一日2〜3回。入れ歯の清掃も毎日行っている。上下ともに入れ歯を使用しているが、機能には不満なく発音もしっかりとしていた。  
 RSSST、頬の膨らまし検査は特に問題なく、オーラルディアドコキネシスは(ハ3、6回、タ3、2回、カ3、3回)で、やや平均を下回る結果だった。

**口腔機能訓練を見学、補助に参加して感じたことは? ※必須**

以前、講義でデイサービスセンターなどの連携が希薄なために、利用者が満足に歯科治療を受けられない(診療に繋がらない)状態であるということを聞いていた。実際に高齢者の方々と話をして、さまざまな疾患にかかっている病院には通っても、口腔内にまで気が回らずに、入れ歯が合わないとか、口腔機能に問題を抱えながらも放置したままになっていることが多いことがわかった。こうして、口腔機能訓練指導の活動を行うことも、歯科医療のひとつであると感じた。

**研修先から学習記録へのコメント**

実習お疲れ様でした。当デイサービスは、比較的介護度の軽い方が多く利用されており、毎食後に歯を磨いているという方はほとんどいらっしゃらないと思います。また、歯料の受診に際しても、高齢なことや体弱不良、交通手段の不足などから思うように行っていないのが現状のようです。現在は、口腔ケアに興味はあるが、実際にやるのは面倒くさいと考えている方が多いようですが、食事をおいしく食べることは健康にもつながりますし、少しずつ理解が深まっているのではと感じています。当デイサービスでも2年ほど前から口腔体操に取り組んでいます。実習で行っていた巻舌の体操は皆さんが楽しそうに行っていましたので、今後取り入れてみたいと思います。

**教員から学習記録へのコメント**

楽しみながら口腔機能を維持、向上させていくことは全身の健康に繋がっていきます。地域の中で、これからの歯科医師ができることはたくさんあるのではないのでしょうか。短時間の実習でしたが、実習で感じたことを今後活かしてください。

図2 「地域福祉体験学習」での学習記録例

本事例では下線部に示すような、講義から更に体験学習で学び感じた学生の意見に対して、施設担当者から丁寧な高齢者についての現状説明があった。現場担当者からの説明から、学生は更に深く学び、資格取得後の地域歯科医療への貢献に活かされることが期待される。

2) 「高齢者交流学習」でのエデュネットの利用

「高齢者交流学習」は、1年次後期において、高齢者施設を毎週3時間(8回)継続的に訪問し、学生が高齢者との1対1の交流を行うことにより、その過程から見えてくる相手の人生や価値観を理解していくという学習プログラムである。学生は、毎回の交流後レポートを提出した。

図3にエデュネットを使用した感想を、図4にエデュネットに対する評価結果を示している。図

3の結果から、全員の学生がパソコンを利用したレポート提出システムがより好ましいと回答している。また、半数以上の学生はエデュネットを便利であると感じており、新鮮さや興味を持っている。エデュネットを使用した84%の学生が、実習を整理し振り返ることができたと答えている。また63%の学生が、実習の不安が解消されたと答えており、交流者とのトラブル回避や、心理的なサポートに関する効果も推察された。

図4のエデュネットに対する評価から、教員コメントを学生全員が確認しており、教員コメントについての高い評価も得られている。レポート課題内容についてはおおむね好評であり、アンケートの最後に実習を終えた感想を自由記載してもらったところ、10名の学生から「先生のコメント見て頑張れました。」などの感想が認められた。このように、「高齢者交流学習」のような長期間の学外実習においては、双方向の教育管理ネットワークシステムによって、学習記録提出の便利さのみではなく、学生の心理的サポート効果や、実習の充実に繋がると考えられた。

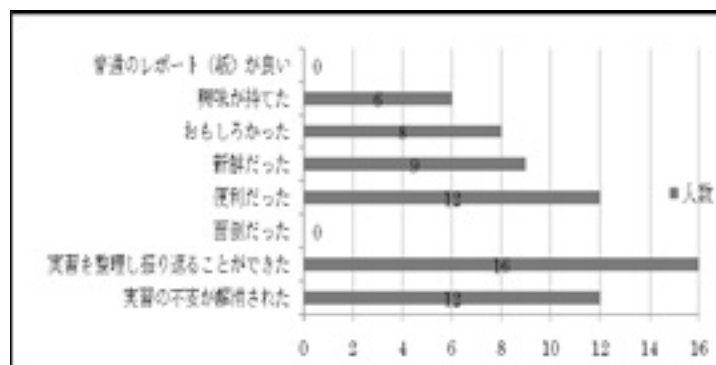


図3 エデュネットを使用した感想(複数選択可)

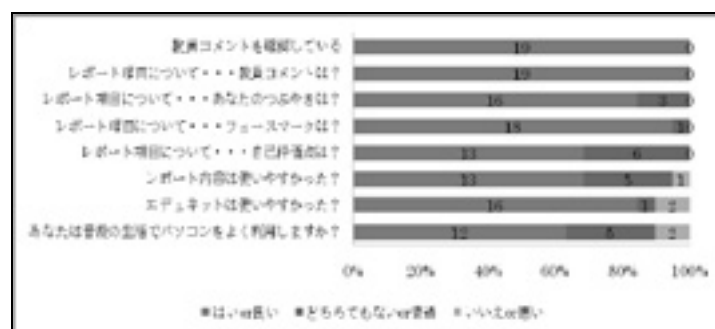


図4 エデュネットの評価  
(図の数字は該当人数を示す)